



～男性にもタメになる～ 働く女性を元気にするヘルスケア

新潟大学大学院保健学研究科 G S H 研究実践センターは、市民公開講座「男女で異なる！」シリーズを通じて、保健学研究の成果を地域の方々にお届けしてきました。

今回のテーマは、働く女性の健康管理がテーマです。女性のからだ・心・生活は、月経や更年期といった性ホルモンに関連した状態に影響されやすく、心身の不調を抱えながら仕事に従事する女性も少なくありません。そこで、月経や更年期が就労の質に及ぼす影響について、調査データに基づきながら、研究グループのメンバーであり「働く女性専門外来」を担当する医師でもある星野寛美氏が講義します。

女性の雇用促進が政策的にも重要と位置づけられている今日、働く女性を理解する上で、女性はもちろん、男性管理職や働く女性のパートナーの方にもおすすめの内容です。

講師

関東労災病院 産婦人科
「働く女性専門外来」担当医師

星野寛美

座長

新潟大学医学部保健学科
放射線技術科学専攻 准教授

山崎芳裕

日時：2014年9月6日（土）10:00～12:00

会場 新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」



新潟市中央区笹口1-1 プラールカ1 2階

- 参加費無料
- 募集人数 40名
- 事前申し込み要

電話/ファクス/メールにて

※当日参加も可能ですが、
定員を超えた場合、入場を
お断りすることがあります。

- 一時保育、聴覚障がいへの対応を必要とする方は、8月29日までにご連絡ください。

申し込み・問い合わせ先 火～金（祝日を除く）9:00～17:00

新潟大学大学院保健学研究科 G S H 研究実践センター（西原）

電話・fax 025-227-2363 E-mail gsh-center@clg.niigata-u.ac.jp

後援：新潟市



性差保健は

・・・男性と女性の健やかライフのキーワード・・・

「性差保健」(GSH)は、男女の身体の違いとともにライフスタイルや生活の場、伝統や慣習なども考慮に入れて、心とからだのトータルな健康支援を行い、保健学を推進することを目的とする研究・活動です。

新潟大学大学院保健学研究科は、性差保健の研究・推進を通じて地域貢献を行うことをめざし「GSH研究実践センター」を設立いたしました。

GSH研究実践センターでは、一般市民の方に向けた保健サービスとして、「女性と男性のこころとからだ・性の相談活動」を実施し、市民公開講座やシンポジウムを開催しています。

また、地元の企業と共同で、性差を考慮した医療や看護の用品・機器・技術開発研究を展開し、行政や保健センター、市民団体などとも連携して、男性も女性もいきいきと健やかに暮らせる地域づくりをめざしています。

GSH 研究実践センター組織図

